



# 障がい児福祉施設や小学校への ゲノム編集トマト苗配布はやめてください!

コロナ感染症が蔓延している中、オンラインでの勉強会(2022年1/30 オーガニック!いすみ市の学校給食)と記者会見(1/27 ゲノム編集トマト苗配布反対署名提出)に参加しました。

○「子ども達にオーガニックを!いすみ市の学校給食と生物多様性の歩み」では手塚幸夫さんから、いすみ市がどのように学校給食でお米100%有機米(いすみっこ)を実現できたのかのお話がありました。

千葉県生物多様性戦略にもとづき作られた「いすみ市生物多様性戦略」(2015年)の視点から、いすみ市の谷津田で行われている米作農業の困難な状況へのひとつの解答として有機農法米が考えられたとのこと。「自然と共生する里作り連絡協議会」での取り組みです。



最初の年は失敗したが有機農業家稲葉氏の指導によって4年間で4tから40t(学校給食の100%)へ生産できるようになったとのこと。優れた指導者と市長の決断、優秀な市職員のがんばりで出来たのだと語りました。

学校給食のお米ですが担当は「農林課」である点も単なる環境政策でなく農業政策、街づくりとして生物多様性戦略の実現があったことを学ばなければと思いました。

教育プロジェクトでは1年間に30時限使って「田んぼと里山と生物多様性」を学んでいるとのこと。

○「福祉施設や小学校へのゲノム編集トマト苗配布に反対する署名提出記者会見」にも参加。いすみ市の有機米の指導にあたった稲葉氏は「ゲノム編集米の稲の栽培が始まるとゲノム編集のタネや苗に表示がないので、知らないうちに有機のお米と交雑する可能性があり、有機のお米がなくなる」と指摘していたとのこと。

OKシードプロジェクトが2021年10/29から行っている「サナテックシード(株)/パイオニアエコサイエンス(株)がゲノム編集されたトマト“シシリアンルーージュハイギャバ”の苗を福祉施設や小学校に配布する計画に反対するオンライン署名」の第一次集約9195筆を全国の都道府県知事、教育長、福祉障がい課と両社宛に送付したとの記者会見です。

この会見で“このゲノム編集トマトは食品としての安全性の調査、環境に与える影響調査が十分に行われていないこと。福祉施設(2022年)や小学校(2023年)に配布された場合、障害児や小学生にゲノム編集の育成・食事が強制されること。更にいったん栽培し始めてしまうと花粉による交雑が心配されること”が訴えられました。

ゲノム編集トマトの苗の配布問題 記者会見

日のプログラム	
5分	11:00~11:01 開会の挨拶・注意事項(原野)
7分	11:01~11:08 OKシードプロジェクトについて、結果の説明(事務局長 印船)
15分	11:08~11:23 シシリアンルーージュハイギャバについて(顧問 天笠)
14分	11:23~11:37 各地からの報告(北海道・熊本 農協担当)
30分	11:37~11:59 質疑応答 ※本日は記者会見のため、ご質問はメディアの方へいただきます。ご質問は2/2000のチャットで随時発行いたします。
1分	11:59~12:00 閉会の挨拶(共同代表・中村)

鎌ヶ谷市に対して2021年12/1にゲノム編集トマト苗を受取らないよう申し入れましたが、市の回答は“国、県、他市の動向を注視する”です。「受けとらない」とは言いませんでした。

全国で各自治体への要請行動が行われており、北海道では179自治体へ働きかけ、42自治体から回答、内14自治体が「受けとらない」と明言。受取るといった自治体はゼロでした。香川県三木町、静岡県富士市・富士宮市も受けとらないとのこと。熊本でも働きかけた福祉施設は受けとらないと答えたとのこと。自治体は「安全が不確実なものは受けとらない、食べさせない=“予防原則”」に立つべきです。

まずはゲノム編集の苗・種・食品などの表示が最低限必要です。「表示の義務なし」という国の姿勢を変えさせましょう。“ゲノム編集トマト苗を受け入れないでください。食べさせないでください。”

\*「民主主義と自治そして平和主義」ふじしろ政夫 047-445-9144